

第1回仙台市役所新本庁舎低層部等公民連携検討会 議事録

日 時 令和3年7月1日(木) 16時00分～18時00分
場 所 市役所本庁舎2階 第一委員会室
出席委員 岩間友希委員、姥浦道生委員、太田伸志委員、大庭克己委員、菅野永委員、
小島博仁委員、馬場正尊委員(50音順)
ゲストプレゼンター 山崎満広氏
仙台市出席者 浅野吉昌まちづくり政策局次長、岩城利宏財政局理事兼次長、
反畑勇樹都市整備局次長、佐藤秀樹建設局次長
基本設計受託事業者 小林一文氏、千葉学氏
事務局 PwCアドバイザリー合同会社、高野一樹財政局長、
菅原大助仙台市財政局本庁舎建替準備室長、その他職員

1 開会

事務局 ただいまより、第1回仙台市役所新本庁舎低層部等公民連携検討会を開会する。本日の検討会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、委員のみなさまのお席の間隔を広めに取るとともに、傍聴席等についても可能な限り、間隔をあけて配置している。また、マスクの着用や入室時の手指消毒をお願いしている他、傍聴や報道機関の皆様は、受付での健康状態の確認と、お名前とともにご連絡先のご提供をいただいている。
それでは、開会にあたり、仙台市財政局長の高野局長よりご挨拶をいただく。

2 仙台市あいさつ(仙台市財政局:高野局長)

高野局長 仙台市役所新本庁舎低層部等公民連携検討会の開会にあたり、挨拶を申し上げます。
市役所本庁舎の建替えについては、平成28年度に建替えの方針を決定してから、これまで有識者の皆様のみならず、市民の皆様も含めて、様々な方にご議論いただいております。昨年度には基本計画を策定し、現在は、基本設計という次の重要なステップに進んでいる。
また、本市では、この6月に勾当台・定禅寺通エリアビジョンを策定したところであり、市役所の低層部については、勾当台公園の再整備や定禅寺通の活性化といった取組みと連携し、周辺エリアとの一体的な利活用を視野に入れて、検討を進めている。
本検討会では、委員の皆様方の専門的な知見を十分に生かしていただき、新本庁舎の低層部が目指す「都市の新たな価値を生むための市庁舎」、「都市に開かれた市庁舎」の実現に向け、是非お力添えをいただきたい。

3 委員等紹介

事務局 本日の委員をご紹介させていただきます。お手元の資料1に、名簿をお付けしているが、本日は、時間の都合上、私から所属とお名前を申し上げてご紹介に代えさせていただきます。

(委員紹介)

事務局 続いて仙台市側の出席者をご紹介させていただきます。

(仙台市側出席者紹介)

事務局 続いて基本設計受託事業者をご紹介させていただきます。本日はWEBでご出席いただいている。

(基本設計受託事業者紹介)

4 座長選出

事務局 座長については、委員の互選によって定めたいと思うが、ご意見等あるか。

小島委員 馬場委員に座長をお願いすることを提案する。

事務局 ただ今、小島委員より、座長に馬場委員をご推薦するとのことのご提案があったが、いかがか。

(一同異議なし)

事務局 では、座長は馬場委員をお願いをする。

馬場座長 座長に就任するにあたり、挨拶を申し上げる。従前に実施してきた仙台市役所本庁舎建替基本計画検討委員会で「チャレンジ」という単語が出てきたように、本検討会ではチャレンジな議論をぜひ行っていきたいと考えている。設計チームにもクリエイティブなアイデアを共有できるように、ぜひ皆さまと活発に議論をしていきたい。

5 議事

(1) プレゼンテーション(要旨のみ)

- ・資料2-1の「新本庁舎低層部等に係るこれまでの経緯／仙台市の目指す方向性」について、仙台市財政局本庁舎建替準備室の菅原室長より説明。
- ・資料2-2の「仙台市役所低層部における公民連携の可能性」について、馬場座長より説明。佐賀県庁ロビーでの都市政策プレゼンによる政策実現並びに南池袋公園及び佐賀県城内公園の事例を踏まえ、民間主導のクリエイティブな仙台市役所新本庁舎低層部を整備することの重要性を訴えた。
- ・資料2-3の「仙台市役所本庁舎周辺におけるプロジェクト等の状況」について、姥浦委員より説明。仙台市基本計画や勾当台・定禅寺通エリアビジョンによる計画を踏まえた、定禅寺通を含む仙台市役所本庁舎周辺エリアをいかに仙台市の象徴となる場所にできるかについて、仙台市役所新本庁舎低層部における整備のポイントを明示した。
- ・資料2-4の「プレヒアリング結果報告/導入機能(案)」について、事務局(PwCアドバイザー合同会社・田頭氏)より説明。仙台市役所新本庁舎低層部のコンセプト(案)の概要、並びに仙台市役所本庁舎周辺エリアの利用実態及びプレヒアリングの結果を踏まえた導入機能(案)についてプレゼンを行った。

- ・資料2-5の「本庁舎建替基本設計プロポーザル案（低層部）」について、基本設計受託者である千葉氏より説明。これまで千葉氏が取り組んできた日本盲導犬総合センター、WEEKEND HOUSE ALLEY 及び敦賀駅交流施設オルパーク・駅前広場の事例を踏まえ、仙台市の魅力を引き出す仙台市役所新本庁舎低層部の計画イメージを説明。
- ・資料2-6の「グローバルで持続可能な仙台の未来」について、ゲストプレゼンターの山崎氏より説明。仙台市役所新本庁舎低層部のビジョン検討にあたって、グローバルという視点から検討することの重要性及び地域経済開発に必要な5つの土台（組織作り、都市デザイン、市場開発、事業開発及び人材開発）の必要性についてプレゼンを行った。

（2）ディスカッション

馬場座長 ここではディスカッションをさせていただきたい。山崎氏のプレゼンで世界から考える目線の重要性をご教示いただいた。本ディスカッションでは、①仙台のビジョン、②低層部にどんな役割・機能があるべきか、③本日のプレゼン内容を踏まえた今後の検討の方向性をメインにディスカッションしていきたい。まずは菅野委員にお願いします。

菅野委員 株式会社 MAKOTO WILL の代表をしている。2018年から当社はスタートし、仙台市を拠点に、東北を中心として経営者及び起業家に対して創業支援を主に行っている。当社は行政の方々とタッグを組んで創業支援を行っているが、私自身が元北海道庁の職員をしていた経歴もあり、他都市に比べても特に過疎化が進んでいる北海道での政策実績があるため、多様な視点を持って支援を行っていると思料する。現職では多くの自治体に足を運んでおり、現場の方々の意見を聞く機会が多いが、人口減少を要因とした多種多様な課題が増えてきており、行政組織が疲弊していることを実感している。前例のない課題に立ち向かうことが行政に求められている状況で、仙台市にはぜひ他自治体の手本になるような背中を見せていただけることを期待する。フットワークを軽くトライアンドエラーで課題解決に向かう仙台市の姿を見せれば、他自治体に勇気を与えることになるだろう。先ほど、多くの自治体に伺ったことがあると言ったが、福島県の須賀川市役所が中でも印象深い。学生等の普通は市役所で見かけない人が多かった。市役所や行政に触れる機会があると、住民意識が変わると思うが、それを仙台市役所でも実現できると、住民参画の意識が高くなると考えている。産業活性化や創業支援の経験がある立場から言うと、0からスタートする人に対して行政ができることはたくさんある。まず、行政は信頼・信用という資産を持っているため、これからチャレンジする住民の背中を押すことをぜひやっていただきたい。

馬場座長 市役所がサポートする空間の設定、及び市民がフラットに訪れる空間づくりの重要性を伺った。次は大庭委員にお願いします。

大庭委員 商工会議所でも3年前に2030年に向けた都市のまちづくりについて議論しており、民間レベルでできることや行政レベルでやるべきこと、官民協働で一緒

にやっていくことを、チャレンジシティ仙台という名前でまとめてきた。仙台市基本計画などにも検討内容を取り入れてもらっており、商工会議所としても仙台市とともにまちづくり検討を行ってきた。現在、都心において再開発や様々なプロジェクトが進められているが、公共投資と民間投資の相乗効果によるエリアマネジメントで個性的なエリアを増やししながら、街を回遊させ、賑わいを創出することが求められている。最近は、コロナ禍の影響で商店街の元気がなく、空き店舗が増加傾向であり、5月末の調査結果だと商店街の路面店舗全体の約10%が空き店舗になっていることがわかっている。仙台市役所新本庁舎低層部の検討では、ぜひ商店街への人の誘導及び連携を考慮した計画を期待する。

馬場座長 仙台市役所新本庁舎周辺エリアの経済活動を活性化させる計画の必要性を伺えた。次は太田委員に願います。

太田委員 私は東京都と東北地方を行き来することが多い。私の故郷は宮城県丸森町だが、東北も自然という観点では、山崎氏のプレゼンで出てきたポートランドに匹敵するし、まだまだ自然の側で人々の生活を発展させることで、仙台市はポートランドを超える場所になると確信した。そのためにはクリエイティブの視点が重要になってくる。先ほど「クリエイティブな市役所にする」ことがポイントであるとプレゼンで話されていたが、その通りだと思う。当社、Steve* inc. はクリエイティブの会社。代表である私自身の職種もクリエイティブディレクターであることから、この場で話すことに重責を感じているが、山崎氏のプレゼンにもあったように、ビジョンがないとクリエイティブは生まれなことを改めて伝えたい。皆さんはもしかしたらポスターや映像やWebサイトを作ること自体がクリエイティブな活動だと考えるかもしれないが、やっていることの本質は、経営者のビジョンを達成するために視覚化すること。ここで言うビジョンは、私たちたちだけではなく、むしろ市役所がまずは持つべきだと考えている。市役所が一番リアルに仙台市の現状をわかっているはずだからである。その点を深く学んだ上でビジョンを設定したい。ビジョンがわかれば手法はいくらでもある。私は、東北の大学で講師として授業も行う機会もあるが、東北の若者は情報を探すのは得意だが、どういう考えを持っているかを説明することが苦手だとよく聞く。仙台市役所新本庁舎低層部は人と接する場所が多くなると想定するが、産業育成の観点で考えると、どんな産業を取り入れるかだけでなく「どんな産業が必要かを若者が考えられる力を育てる」ことも大事なのではないか。仙台市役所新本庁舎低層部におしゃれな本屋・カフェなどがあるだけでなく、「こうあるべき」という議論が若者同士で生まれる環境を作り出すことが大事であると思う。

馬場座長 仙台の未来を考える場にすることの重要性を伺った。仙台市役所新本庁舎低層部をどういう空間にしていくかを考えることが本検討会の目的でもあるため、基本姿勢を改めて確認できた。次は岩間委員に願います。

岩間委員 普段は泉区のショッピングモールでテナントとしてNPOとして活動している。買い物からまちづくり・地域活動が生まれるために、商業とNPOが連携して活動しており、住民の「実はこんなことに困っている」を引き出し、人と人をつ

ないで課題解決することを生業としている。仙台市のビジョンとしては、“The Greenest City” SENDAI が仙台市基本計画でも掲げられているが、行政や町内会等で決めたビジョンであることから、大切にしているのではないかと。ビジョンドリブンによるビジョン達成は、ストレッチしないといけないため、非常にタフである。ビジョンドリブンで進める際、不足する情報発信を強化できたら市民にももっと伝わるのではないかと。

馬場座長 岩間委員が行っている活動から仙台市のビジョンに対する意見を伺った。次は姥浦委員にお願いする。

姥浦委員 重要なのはチャレンジすることだと考える。これをどう実現するか、ブレイクダウンすると、まずは人が重要である。仙台市総合計画を作る際、一つ一つの分野では解ききれないが、垣根を越えて大学、市役所、住民で課題を解くことが必要という話が出た。これを実現する場が仙台市役所新本庁舎低層部になってほしい。山崎氏が仙台市は「ほどよい都会」だとおっしゃっていたが、私自身もそう考えている。私は仙台市出身ではないが、仙台市にはずっと住みたいと願って来て、今住むことができている。仙台市は日本で、世界にも誇れるまちだと考えている。仙台市には、レベルの高い人が多く住んでおり、東京とは違って見える場所にいらっしゃる。勉強するために仙台市役所新本庁舎低層部に来るのではなく、自然に楽しくて来てしまっているの間にかクリエイティブに課題解決できる場所が理想だ。次に、回遊性も大事である。周辺施設との役割分担をしながら回遊性出していくことが重要になる。

馬場座長 人材の掛け合わせと回遊性が重要なポイントであることを伺った。事業につながりやすいご意見であり、仙台市を大きくプロモーションした方がよいことを実感した。

小島委員 私は市役所職員のOBとして意見をお伝えする。当時の私は、市民協働は地域の方々とクリエイティブなまちをつくろうと、行政が責務をもって行動することが求められており、行政に重しがあると意識していた。しかし、元安孫子市長の福島浩彦氏の言葉で意識が変わった。それは、市民協働は、受益者市民に対して行政とマインドある市民と一緒に行動することであった。行政だけで担うのではなく、公民連携で課題解決をすることである。仙台市は、サポセン等の市民を育ててきた既存機能を持っているが、仙台市役所新本庁舎低層部は、新たな課題を行政のためではなく、行政と市民と一緒に取り組み、この活動を発信する拠点になることが求められている。事務局が実施したプレヒアリングに同行したが、その際、各現場の個別での取組から活動を拡大していくところには限界を感じているところもあり、各関連施設や活動の連携が少ない課題があることがわかった。したがって、仙台市役所新本庁舎低層部からこれらの活動を連携し、各活動が羽ばたいていく場所にしていくことが求められており、活動がふ化したら、市民広場や国分町等で広域展開していければ面白い。従来の活動の延長ではなく、新しい発想をぜひ入れていきたい。最後に事務局へのお願いだが、山崎氏には次回以降も本検討会で一緒に考えていただけたらありがたい。

馬場座長 私もぜひ山崎氏には今後も参加いただけたらと思うが、いかがか。

山崎氏 検討させていただく。

馬場座長 最後に千葉氏よりお話を伺いたい。

千葉氏 現状の検討では、低層部よりも庁舎の高層棟に重きを置いているため、低層部まではあまり詳細な検討はできていない。仙台市役所の建替えは、今回で三代目になる。最初は御上としての庁舎だったが、高度経済成長期にできた庁舎は、経済合理性を重視され、市民参画の考えが出てきた時代であったが、まだ抽象的だった。今回の建替えは、市民の顔が見える市民のための庁舎ができる絶好の機会である。

山崎氏 本日ディスカッションしたことは、答えのない課題なので、次回はホワイトボードを出して皆で議論してイケたらよい。

馬場座長 ぜひ検討していきたい。

岩城理事 多くの皆さまにプレゼンをしていただき、たくさんの方向性を指南いただいた。どのような機能を作りこむかという話もある一方、コロナ禍の影響もあり、市の財政状況は厳しい。何とか知恵を出して解を求めたいが、いかに効果的に整備するか、市の財政状況も踏まえて“あったらいいな”ではなく、どういう機能があるべきかを検討しないとイケない。本市は政令市の中で、市民センター等の地域施設の延床面積が最も多く、児童館も多い。駅前にはスタートアップ支援施設があり、今後開業する民間のイノベーション施設もある中で本当に何が必要なのかを、今後の検討会でも議論していきたい。

馬場座長 非常に大事なご意見をいただいた。民間が参入することで市の財政削減にもつながるため、いただいたご意見をもとに今後の検討会でも議論していきたい。

6 公民連携検討会における今後の予定について

事務局 次回の議題は資料3のとおり。本日の議論を踏まえ、今後の議題は事務局で議論して決めていく。

7 その他

(特記事項なし)

8 閉会

事務局 本日は、以上をもって第1回仙台市役所新本庁舎低層部等公民連携検討会を閉会する。

以上